

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

平成26年4月14日（月）～平成26年4月20日（日）〔平成26年第16週〕の感染症発生状況

第16週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) インフルエンザ 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

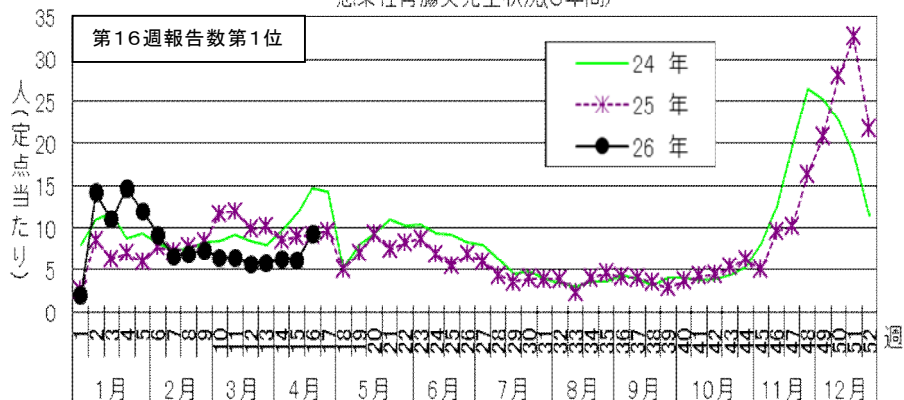
感染性胃腸炎は定点当たり9.27人と前週（6.18）より患者報告数は増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。

インフルエンザは定点当たり2.56人と前週（2.50）より患者報告数は増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。

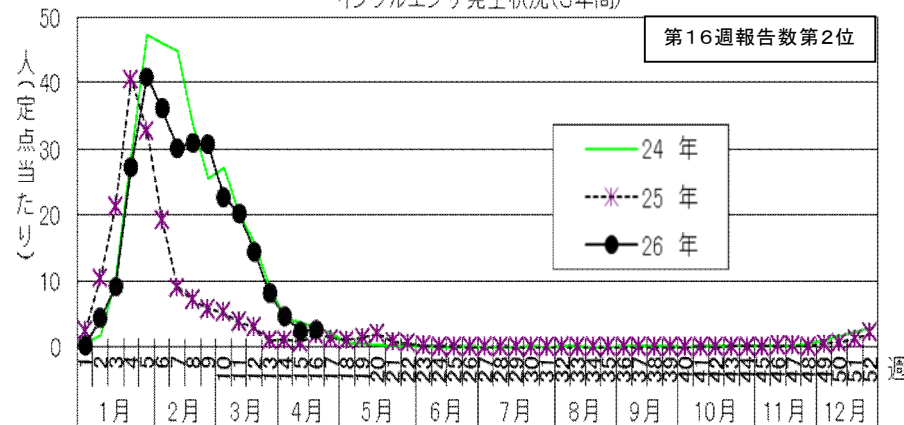
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり1.94人と前週（1.18）より患者報告数は増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



インフルエンザ発生状況(3年間)



油断大敵 ～感染性胃腸炎に注意しましょう～

感染性胃腸炎は主にウイルスを原因とする胃腸炎の総称で、症状は下痢やおう吐などです。原因となるウイルスは、「ノロウイルス」、「ロタウイルス」、「サポウイルス」、「アデノウイルス」などで、病原体に汚染された食品やおう吐物・便を介して感染します。

川崎市では、平成25年12月に流行のピークをむかえた後、患者数は減少していましたが、第16週の報告数は前週の約1.5倍と再び増加しているため、注意が必要です。

～感染を広げないために～

1. こまめな手洗いを心がけましょう。
2. おう吐物や便は、次亜塩素酸ナトリウム（塩素系漂白剤）を使用し、適切に処理しましょう。
3. 使い捨ての手袋、マスク、エプロンを活用しましょう。
4. 二枚貝を調理するときは、十分に加熱しましょう。（中心温度 85～90℃で少なくとも90秒間）

川崎市における感染性胃腸炎発生状況(5年間)

